

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 15 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520217

研究課題名(和文)女性「労働」の文学表象に見る一九一〇年代の雑誌文化交流の研究

研究課題名(英文) Study of cultural exchange magazine of one thousand nine hundred and ten's seen in literary representation of women "working"

研究代表者

金子 幸代 (Kaneko, Sachiyo)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：40224597

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日露戦争後(1905)から大正初期(1913)に発刊された明治期を代表する女性投稿雑誌「女子文壇」を中心として、「青鞥」や「女学世界」、「婦人界」など同時代の女性雑誌や「スバル」や「歌舞伎」などの文芸雑誌とどのように関係していたか、特に「労働」という視座を設定して比較調査を行った。

第1の目的は、「女子文壇」や同時代の諸雑誌の言説を「労働」の視点から調査研究することで、明治末期から大正期の職業・女性問題の一端を明らかにすることであった。第2の目的は、とりわけ明治の終期から大正にかけての雑誌相互の影響関係が雑誌文化の形成にいかなる関与をしていたかを解明することであった。

研究成果の概要(英文)：In this study, as the center woman posted magazine on behalf of the Meiji period, which is published in (1913) Taisho and early (1905) Russo-Japanese War after the "women's literary world", and "Seito" "Woman Science World", "women's world How was associated with literary magazine of the same age and women's magazines and "Subaru" and "Kabuki" and ", and compared survey by setting the perspective of "labor" in particular.

Through the research from the point of view of the "labor" the discourse of various magazines of the same period and "women's literary world", the purpose of the first, was to reveal the end of the vocational and women's issues in the Taisho period from the late Meiji were. A secondary objective was to elucidate effects related magazine mutual Taisho whether had any involvement in the formation of the magazine from the end of the culture Meiji particular.

研究分野：人文学部

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：女性労働 1910年代 女子文壇 小寺菊子 雑誌文化交流 青鞥 スバル 三田文学

#### 1. 研究開始当初の背景

近年、明治期女性雑誌の中でも「青鞥」(1911年創刊)については研究書が盛んに出版されるようになった。明治期女性雑誌も復刻されるようになり、次第に研究環境も整ってきたが、国内外で雑誌同士の交流・連関そのものに焦点を当てた雑誌研究は見当たらない。加えて、女性雑誌や文芸雑誌が「労働」をどのように取り上げてきたかを全体的に把握した研究はほとんどない。

本研究は、明治終期から大正期にかけての雑誌について「労働」や「交流・連関」の視点から日露戦後の言説表現の変化を究明する点に特色があり、文学研究のみならず言論など雑誌文化を掘り起こす意義がある。

#### 2. 研究の目的

本研究では、日露戦争後(1905)から大正初期(1913)に発刊された明治期を代表する女性投稿雑誌「女子文壇」を中心として、「青鞥」や「女学世界」、「婦人界」など同時代の女性雑誌や「スバル」や「歌舞伎」などの文芸雑誌とどのように関係していたか、特に「労働」という視座を設定して比較調査を行った。

第1の目的は、「女子文壇」や同時代の諸雑誌の言説を「労働」の視点から調査研究することで、明治末期から大正期の職業・女性問題の一端を明らかにすることであった。

第2の目的は、とりわけ明治の終期から大正にかけての雑誌相互の影響関係が雑誌文化の形成にいかなる関与をしていたかを解明することであった。

#### 3. 研究の方法

「女子文壇」の項目については主に「小説」「随筆」「日記」「書簡」「紀行文」「評論」「対話劇」「詩」「和歌」「俳句」「スケッチ・画」「写真」の区別を行い、項目別データベースの作成に着手しており1910年(明治43)1月から終刊年である1913年(大正2)8月までの3年8ヶ月分が完成している。まず、このデータベースを完成・整備し、「労働」に関連する項目について取り上げて分析を行う。

研究の進展のため、職業紹介記事のある「婦人之友」など、女性雑誌・文芸雑誌の中の「労働」に対する言説について職業紹介記事や労働関係記事をひも解くことで明らかにし、女性問題中の「労働」の扱われ方を明らかにする。

続けて日露戦後の8年半に及んで刊行された「女子文壇」がどのように他の女性雑誌と関わりを持っていたか特に「労働」の視点を中心として実際の誌面から読み取り、同時に他の女性雑誌の資料収集を進め女性雑誌全体の連関を明らかにする。さらに、「女子文壇」に掲載されている雑誌の広告について、取り上げられている数量や内容を調査していく。

#### 4. 研究成果

##### 平成23年度

(1)資料目録作成 女性雑誌・文芸雑誌関連文献資料収集の情報入手するため、国会図書館、国文学研究資料館、東京大学法学部資料編纂所、一橋大学図書館明治文庫、横浜開港資料館、東京都近代文学館や石川近代文学館、富山県立図書館、福井県立図書館の調査により、関連文献により広く当たり、資料目録を作成するとともに必要なものは複写した。前の二者については、インターネットを活用することも重視し、作業の効率化を図った。

(2)基礎的な資料の収集 文献資料を東京大学法学部資料編纂所の明治新聞雑誌文庫、法政大学図書館、早稲田大学図書館、一橋大学図書館明治文庫、国立国会図書館、国文学資料館、横浜開港資料館、東京都近代文学館や石川近代文学館、富山県立図書館、福井県立図書館で以下のように収集した。

a)女性雑誌における日露戦後から明治終焉期までの「労働」関係記事の特徴を明らかにするために、詩、短歌、俳句作品、翻訳された詩・小説・戯曲および「労働」紹介記事を収集した。さらに女性雑誌・文芸雑誌相互の交流・連関が現れる記事・広告の実例を収集した。

b)女性雑誌・文芸雑誌における日露戦後から明治終焉期までの言説の変化を明らかにするために、特に小説・戯曲作品については創作と翻訳小説・翻訳戯曲にわけて収集した。

(3)文献資料、調査研究資料の整理、分析 購入、複写した資料を以下のように整理、分析した。

a)「女子文壇」の項目別索引データベースを完成させ、「労働」を取り上げた言説について分類し分析を行った。

b)雑誌の交流・連関について調査資料の研究の蓄積をまとめるためにデータベースの作成に着手した。

c)専門研究者や必要に応じて投稿者の親族に対し、資料提供やインタビューを行った。

##### 平成24年度

(1)基礎的な資料の収集(継続) 平成23年度の(2)を引き続き行う。女性雑誌に関する研究会等にもアクセスし、情報収集に努めるとともに、補充すべき女性雑誌関連の資料や入手可能な対象がでてきた場合は柔軟に対応した。

(2)文献資料、調査研究資料の整理、分析(継続) 平成23年度の(3)を引き続き行い、女性雑誌の交流・連関のデータベースを完成、精査し、さらに明治終期から大正期にかけての女性作家が「労働」をいかに扱っていたか解析した。

(3)中間成果の発表 中間成果について関連する学会・研究会での発表を行い、批判的検討を加え、研究の方向性、妥当性についてチェックした。

## 平成 25 年度

(1) 基礎的な資料の収集(継続) 日露戦後から明治終焉期にかけての女性の位置づけについて女性労働史および出版史関連の資料も補足的に調査した。

(2) 資料の解析作業 平成 23 年度～24 年度の研究成果を踏まえ、「労働」と「交流・連関」の視点から雑誌文化の特性を検証した。全体の仕上げの作業である。

(3) 成果発表 研究のまとめを行うために、第二次資料収集を可能なかぎり行った。成果について関連する学会・研究会での発表を行い、批判的検討を加え、得られた成果を論文として発表し、研究のまとめを行った。上述の研究方法与方針にそった研究成果報告書を作成し、関連の研究者、研究機関に配布した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 18 件)

・金子幸代「書評：『青鞥』と世界の『新しい女』たち」(『週刊読書人』2011 年 7 月 発行)

・金子幸代「富山の女性文学の先駆者・小寺(尾島)菊子研究 4 徳田秋声・三島霜川・近松秋江と『あらくれ』のこと」(『富山大学人文紀要』55 号 2011 年 9 月 発行)

・金子幸代「鷗外と戯曲」(別冊太陽(生誕 150 周年森鷗外記念号)2012 年 1 月 発行)

・金子幸代「イプセン『人形の家』をめぐる森鷗外と魯迅—魯迅生誕一三〇年に寄せて」(『富山大学人文紀要』56 号 2012 年 2 月 発行)

・金子幸代「『青鞥』と『女子文壇 発禁問題と『新しい女』』」(『社会文学』36 号 2012 年 2 月 発行)

・金子幸代「日独交流一五〇周年と森鷗外」(『近代文学研究』14 号 日本文学協会近代部会 2012 年 3 月 発行)

・金子幸代「『棕鳥通信』における鷗外の引用戦略：「市民的公共圏」を求めて」(『鷗外』91 号 2012 年 7 月 発行)

・金子幸代「日独一五〇周年と森鷗外：生誕一五〇年に向けて」(『近代文学研究』29 号 2012 年 10 月 発行)

・金子幸代「森鷗外のドイツ観劇体験—日本近代劇の起源」(『文学』1、2 月号 2013 年 2 月 発行)

・金子幸代「Mori Ogai und das deutsche Theater(森鷗外とドイツ演劇)」(『富山大学人文学部』第 58 号 2013 年 2 月 発行)

・金子幸代「森鷗外生誕 150 周年記念 異文化理解の検証と普及 「知の東西融合」シンポジウム報告書」(森鷗外プロジェクト報告書 2012 年 10 月 25 日 発行)

・金子幸代「小寺菊子と徳田秋声」(『ふるさ

と文学を語るシンポジウム報告書」第 4 号 2013 年 3 月 発行)

・金子幸代「『棕鳥通信』への視覚 5 『棕鳥通信』における人名の頻出順位(トップ二十九)」(『富大比較文学』第五集 2012 年 12 月 12 日 発行)

・金子幸代「二十年後の海外通信員」(『森鷗外『舞姫』を読む』 勉誠出版 2013 年 4 月)

・金子幸代「注釈の発見とよるこび：『鷗外近代小説集』第三巻を通して」(『日本近代文学』第 89 号 2013 年 11 月 発行)

・金子幸代「『棕鳥通信』への視覚 6 『沈黙の塔』と発禁問題」(『富大比較文学』第六集 2013 年 12 月 12 日)

・金子幸代「森鷗外『青年』の文体：歩く純一・眠れる三四郎」(『富山大学人文学部』第 60 号 2014 年 2 月 発行)

・金子幸代「小寺菊子と泉鏡花」(『ふるさと文学を語るシンポジウム報告書』第 5 号 2014 年 3 月)

[学会発表](計 7 件)

・フンボルト大学「森鷗外 150 年記念国際シンポジウム(招待講演)」

2012 年 7 月 9 日

ドイツ・ベルリン・フンボルト大学

金子幸代「鷗外とドイツ演劇」

・日本比較文学会 60 回記念東京支部大会

2012 年 10 月 20 日

日本大学文学部

金子幸代「鷗外の『舞姫』と『棕鳥通信』

・富山文学の会第四回シンポジウム

2013 年 3 月 3 日

高志の国文学館

金子幸代「小寺菊子 徳田秋声と三島霜川

」

・日本文体論学会春季大会

2013 年 6 月 23 日

文京大学

金子幸代「森鷗外『青年』の文体：歩く純一・眠れる三四郎(招待講演)」

・「女性作家の「労働」表現 地域からの発信」シンポジウム

2013 年 11 月 28 日

富山大学人文学部

金子幸代「特集女性作家の「労働」に関する 1910 年代の文学表象 反骨の作家・小寺菊子」

・1910 年代の女性労働の文学表象シンポジウム

2013 年 11 月 30 日

日本近代文学会北陸支部大会

金子幸代「小寺菊子を事例として」

・富山文学の会第五回シンポジウム

2014 年 3 月 2 日

高志の国文学館

金子幸代「小寺菊子と泉鏡花」

[図書](計 5 件)

・金子幸代監修・解説「『女子文壇』執筆者

名・記事名・データベース」(不二出版 2011年10月)

・金子幸代他共著「<3.11 フクシマ>以後のフェミニズム：脱原発と新しい世界へ」(お茶の水書房 2012年7月 発行)

・金子幸代「森鷗外とイプセン劇—『ジョン・ガブリエル・ボルクマン』『人形の家』受容」(『世界文学翻訳総合目録』 大空社 2012年12月 発行)

・金子幸代注釈・解題「鷗外近代小説集第三卷」(岩波書店 2013年2月 発行)

・金子幸代編集・解説「小寺菊子作品集 全三巻」(桂書房 2014年2月 発行)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

(金子幸代)

研究者番号：40224597

### (2) 研究分担者

(有元伸子)

研究者番号：50202768

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：